

修士論文

修士論文（Thesis）は、自分が提起した研究上の問題について、学術的かつ論理的に議論を展開し、結論または仮説を提示するものです。どのような対象・主題を扱うものであっても、必ず学術的・論理的であることが要求されます。したがって内容には実証性が要求されますので、記述はすべて正確でなければなりません。論証できない主観的見解を書いたものは、学術論文とはみなされません。

論文を書くには、まず自分の選んだ対象と主題に関連する先行研究業績を集めて読み、他の研究者による先行研究をさらに発展させ、これまでの研究を一步進めた見解を述べる必要があります。

次のようなものは、論文として認められません。

- 1 他人の文章からの引用を並べただけのもの。
- 2 他の研究者の意見を無批判に繰り返したものの。
- 3 一冊の本や一編の論文を要約したものの。
- 4 調査の結果や統計などを提示し、分析や議論、意見表明が欠除したものの。
- 5 事実の推移や経過だけを記録し、分析や議論、意見表明が欠除したものの。
- 6 論証できない自分の希望や想像を書いただけのもの。
- 7 他人の研究業績を無断で使ったものの。

他の研究者の文章、意見を自分の論文の中で使用する時には、文章をそのまま使用する（引用する）場合でも、自分の言葉で言い換えて（要約して）用いる場合でも、必ず適切な方法で出典を明示しなければなりません。正しい出典表記をせずに他人の研究業績を使用することは剽窃・盗用であり、研究者が決して行ってはならないものです（研究活動における特定不正行為にあたります）。剽窃・盗用がある場合、すなわち適切な出典表記がなされていない場合、修士論文は不合格となります。大学による懲戒の対象とされることもあります。

ので、決して行わないよう注意して下さい。

なお、生成 AI の出力を、そのまま自身のレポートや学位論文に使用することは認められません。しかし、情報収集や文章の校正、翻訳のため、補助的に生成 AI を利活用することは認められます。生成 AI を使用した場合、使用した生成 AI の種類と使用した個所を序論および文章中に明記してください。

修士論文の構成

修士論文の一般的な構成要素は次のとおりです。

タイトルページ、目次、序論、本論（複数の章と節で構成）、結論、注記（各章末尾に表記する場合や、脚注とする場合があります）、参考文献リスト。目次と参考文献リストは必ず記載してください。

実際に論文を作成する場合には、指導教員と相談しながら構成を考えることが求められます。

修士論文の審査とその基準

審査の方法

・修士論文は、愛知文教大学学位規程に基づき大学院研究科会議により選出された 3 名以上の審査委員（主査 1 名、副査 2 名以上）からなる審査委員会によって審査されます。

・修士論文の最終試験は、審査委員による論文審査終了後に、口述または筆記で行います。

・最終試験の結果として審査委員会は修士学位授与の可否を判断します。この判断に基づき、研究科会議は、会議出席者の 3 分の 2 以上の賛成による議決によって修士論文合否を判定します。

審査の基準

審査委員会は、次の点を基準として論文審査および最終試験を行います。

論文審査

- (1) 先行研究を踏まえた主題・研究課題設定の適切性
- (2) 先行研究の評価検討の適切性
- (3) 調査や資料読解の正確性と適切性

(4)議論と展開の論理性と実証性

(5)結論や仮説の合理性と執筆者のオリジナリティー

(6)出典表記や引用の適切性

(7)文章表現や文法の適切性と論文としての体裁の適切性

最終試験（上記に加えて）

(8)論文の主題に関連する学識および研究能力を有するか否か

(9)高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有するか否か